

序 文

2003年に初版を刊行して以来、はや9年の歳月がたちましたが、この間にも子どもを取り巻く社会環境はより一層深刻化しています。福島原発事故、欧州を中心とした通貨危機など、科学至上主義、経済至上主義の影の部分が浮き彫りになりました。

日本の、世界の将来を担っていく子どもたちが、健やかに育ち、50年、100年先も安心して住むことのできる地球を守るために、私たちが何をすべきか一緒に考えましょう。

子育ては、民族の伝統文化の原点です。親から子へ、またその子へと、何千年もかけて、心の奥深くに民族の魂が受け継がれてきたのです。しかし、高度経済成長とともに、この四半世紀あまりで、日本の伝統的な家族制度は崩壊し、核家族化、少子高齢化から、男女共同参画社会、シングルマザーの増加へと、もはや家族で育てるというこれまでの子育ての規範が当てはまらなくなっており、子どもを守るための新しい育児体系を通じて世代から世代へと伝えねばなりません。

本書では、子育てには地域コミュニティ社会の力、「子育ての社会化」が不可欠であるという視点に立って、子どもの健やかな成育のために今日の育児上での課題を明らかにし、次の時代の子育て支援を実践していかれようとする専門職の方々のお役に立つよう編纂しました。

最後に、刊行に当たり、ご尽力いただいた日本小児医事出版社森義行社長に深甚なる感謝を申し上げます。

平成24年3月吉日

中 村 肇